

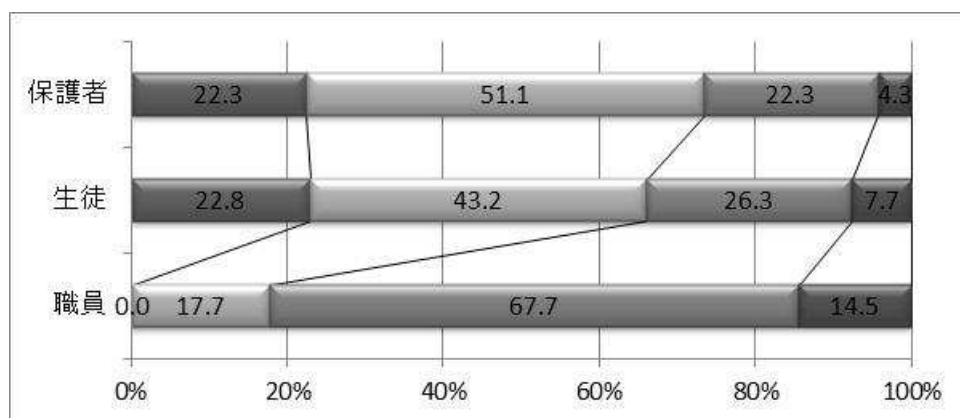
平成24年度学校評価に関するアンケート結果

平成25年6月13日

学校評価検討委員会

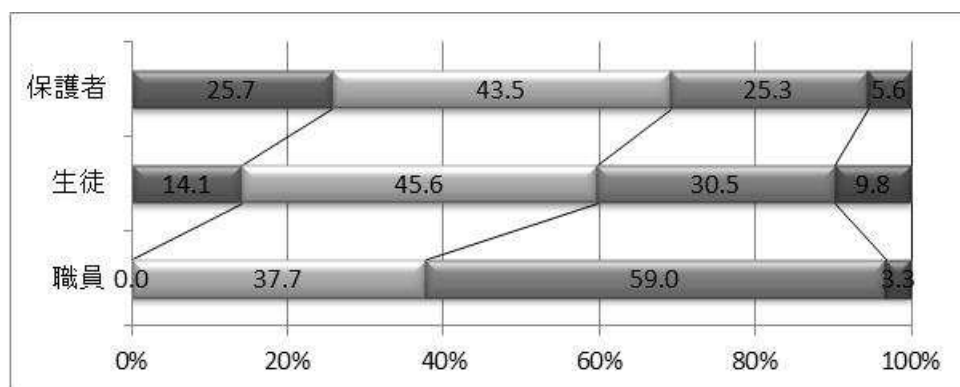
1, 2学年保護者あてに、3月19日付け文書で、平成24年度学校評価に関するアンケート調査を3依頼し、3月22日までに回収した。

- 1 「本校生徒は、身の周りにある危険に注意を払って生活している。」
「そう思う」または「ややそう思う」と回答した保護者の割合 73.4%
生徒の割合 66.0%
職員の割合 17.7%



保護者と職員の感じ方の開きは、なぜ生じたと思いますか。御意見を率直にお書きください。

- 2 「生徒は、意欲的に授業に取り組んでいる。」
「そう思う」または「ややそう思う」と回答した保護者の割合 69.2%
生徒の割合 59.7%
職員の割合 37.7%



保護者と職員の感じ方の開きは、なぜ生じたと思いますか。御意見を率直にお書きください。

<1について>

(昨年度1学年保護者)

- ・保護者は、自分の子だけをみての感じ方、先生は、たくさんの生徒をみての意見なので、感じ方が違ってあたりまえ。
- ・日頃から、生徒一人一人の行動を把握しようとする職員の方々の努力が感じられる。
保護者は生徒のよい面しかみてないのかもしれない。
- ・保護者が子どものことをきちんとわかっていないために生じたのではないかと思う。
- ・想像だが、家庭にいるときの子どもと学校にいるときの子どもでは、学校にいるときの方が集団心理というか、大勢だと気が大きくなってしまい、身の周りの危険が見えなくなってしまうのではないか。
- ・保護者の場合は、自分の子どもとあるいは友たちがどのような行動をとっているかという限られた情報しかないので、全般的な見方ができる職員との感じ方に差が生じる。
- ・本校生徒はと質問されても、実際に危険に遭遇した生徒がどれくらいいるのかわからないので、自分の子どもについて回答している。保護者は家庭外で、自分の子どもの行動があまり把握できていない。職員は多数の生徒をよく観察しているから。
- ・個人、集団では、注意の払い方が違う。学校生活での子どものようすを、親が理解できていないところがある。不慮の事故もあり得るので、家庭での話が大事だと思う。
- ・親がみているのは危険の少ない家庭であり、友たちと出かけている時等、危険があるであろうときをみていないため。親は、なにかあったときに責任を負う覚悟をしながら、子どもを信用しようという気持ちがあるからだと思う。
- ・一歩校門を出れば、子どもたちはパラダイス。身の周りの危険など頭の中になく、学校の中と外を上手に使い分けている。限られた管理体制で開きが出るのは仕方がない。
- ・保護者の理解がうすい。
- ・高校生だし、さんざん注意されていると大丈夫だろうと思っていたが、先生方の感じ方が低いので、危機感をもって子どもに目を向けたいと思う。
- ・保護者と子どもで話をしていると思うが、やはり、個人での行動時や集団時の行動を、日々間近でみているかみていないかの違いもあると思う。
- ・職員が伝えたいことが子どもに伝わっていないため。保護者の伝えたいことが子どもに伝わっていないため。高校生は、本人たちは大人と思っているところもあるが、まだまだ子どもなので、危険なこととは何度も伝え、保護者も職員も、その都度みていくことが必要だと思った。
- ・先生方が危険と思うことが、保護者にはわからないのだと思う。
- ・生徒個々によっても開きがあるので、親の感じ方に開きがあるのではないか。
- ・保護者として、子どもたちの評価が甘いということではないか。
- ・身の周りの危険の認識が、保護者は緩いのか。子どもをとりまく環境をもっと知るべきだと思う。また、自分の子は大丈夫という楽観もあるのかと思う。先生方の感じる危険性を知らせてほしい。
- ・身の周りにある危険ということが漠然としていて、大きな事件になる危険から、そこへの入口である事柄の危険の認識に開きがあるのではないかと思う。
- ・スマホ等の使用状況については、本人と話し合いをしているので、管理できていると思う。
- ・保護者は、子どもの性格などを職員よりわかっているので、約束したことを守って生活をしていれば、ある程度安心できる。職員は、校則などを守れないと、すべて生活態度なども悪いのではないかと考えてしまうのでは。
- ・先生たちはどのように考えているかを知らせてほしい。各家庭で、このようなことは注意しなさいと。子どもには伝えていていると思うが、親と先生は、映り方が違うのだと思う。基準が違うということか。ぜひ先生たちの基準をしらせてほしい。
- ・私としては、自宅から学校までの通学のプロセスにある危険について考え、答えたつもりだが、もしかしたら、先生方が考える危険の焦点と違うのかもしれない。

(昨年度 2 学年保護者)

- ・自分の子どもを基準として考えると、やはり甘く見てしまうところがあり、危機意識を下げた結果ではないか。
- ・生徒の身だしなみや登下校のようすをみていると、注意を払っているようにはみえない生徒がたくさんいる。先生方がいつも見守ってくれているから、心配してくださっているように思う。
- ・身の周りにある危険に対する知識・認識不足が親に、子どもにあるのではないか。職員に、注意を払う必要があると感じている人が多いということは、その点に関する具体的情報をもっと発信する必要があると思う。
- ・家でみる限り、そういう感じにみえたからである。子どもが外出したときの行動を把握できていない。
- ・保護者は自分の子どもの事をみているようで、きちんとした角度から子どもをみることが出来なくなっていると思う。(子どもたちは、危険を危険と認識していないのでは)。先生方は、一番近くで子どもたちのことを見守ってくれ、いろいろな状況をよく知っている。現状を知らない保護者と、現状を知っている先生方との見方の違いが原因である。
- ・登下校やマラソンなどで、外にいる生徒をみていると、とても注意を払っているようにはみえない。北総線の電車を待っているときに、男女がじゃれあったりして、黄色の線の外側でふざけあい、とても危ないと思った。全員ではないが、注意を払っているとは思えない。
- ・ある程度の危険とは、いつも隣り合わせだと思うが、大人が心配しているよりは、本人たちはしっかりしていると感じている。
- ・保護者が学校のことを理解できていないから。
- ・子どもとのコミュニケーションがとれていないから、よくわかっていない親が多いと思う。
- ・自分の子どもは大丈夫と、親はあまり心配していないのではないか。先生方は、冷静に判断している。うちの子に限ってが、まだ親にはあると思う。まして、高校生となると、気むずかしい年齢で、やたらと親が子どもに口出しするとすねたり、親が子どもを避けたりしているのでは。
- ・保護者、生徒は、この程度危険に注意を払っていれば十分だと思っているが、職員はいろいろな実例を見たり聞いたりしているので、注意を払っていないように感じる。
- ・職員は管理する身であることから、常にもしものことを考えるが、保護者や生徒は、日常の毎日の繰り返しという安易さがあると思われる。心配ばかり考えていると、子どもを外に出せない。未成年ではあるが、善悪の判断は出来ると思う。学校内では、先生方がしっかりと管理してほしい。
- ・職員の割合が低い要因を教えてほしい。問題があるならば、それを発信してほしい。
- ・自分の子どもにしつけのできない親が多く、生徒、保護者の危険度の認識の甘さが結果に出ているのでは。登下校中の自転車、徒歩通学者の横一列はよくない。
- ・子どもが無事に帰ってきてくれていることが、親にとって一番大事なことなので、先生方は登下校の生徒のようすをみていて、心配されているところがよくわかるのだと思う。
- ・すべての項目の、職員の割合の低さに驚いた。半数以上の保護者、生徒はできているが、一部の生徒に自覚がない行動があるため、このような結果になったのか。
- ・保護者には、学校生活がみえない。職員の 17.7%は低いですね。身の周りにあるどんな危険に注意を払っているかが知りたい。
- ・保護者は、自分たちが子どもを育てていく中で、やってはいけないこと、何が危険か繰り返し教えたので、自分たちの子どもは大丈夫だと思っているのではないか。しかし、先生から見ると、何をしてくすかわからないし、危険なことも平気でやるので、保護者と先生の上に大きな開きがあるのだと思う。先生からも、毎日危険に思うことや自分が注意しても、相手から危害を加えられることもあるので、人生の先輩として助言してほしい。

<2について>

(昨年度1学年保護者)

- ・保護者は、授業をみることがあまりなく、自分の子どもの話などからの感じ方だから、開きがある。
- ・日頃から、各教科の先生方が生徒と接しているが、保護者は生徒の話や、持ち帰った結果的な答案、ノート、配布物等で感じ取るため。
- ・保護者が学校行事に参加していないため、子どもがみえていない。
- ・実際のところは、職員が感じている方に近いのでは。
- ・自分の子どもは大丈夫と思っていても、実際は、私語、携帯電話、ガムなど、約束を守れていないかも。
- ・保護者は、実際に日々の授業をみることができないので、家庭学習のようすや成績から、想像するしかできないため。
- ・家庭での学習をみる限り、熱心に勉強をしている場面をあまりみないので、正直、このアンケート結果はよくわからない。ただ、授業態度はそれほど悪くはないと思う。むしろ真面目に受けていると思う。
- ・保護者は、自分の子どもについてのみ回答し、日々の授業は参観できないため、担任からの授業中のようすの報告や成績から判断して回答している。職員は、毎日授業をして、生徒をみる時間が長いので開きがある。
- ・学校生活と自宅での学習に開きがあるのではないかと思う。
- ・いまの子どもは、使い分けがびっくりするくらい上手。勉強する子はするし、しない子はしない。特に1、2年はなんとかなるさという状況。先生が指導するが、のってこない子どもたち。3年になって苦労しながら成長するのもかも。
- ・子どもの話を聞いていると、楽しそうに頑張っていると思っていたが。現場で直接感じている先生方の意見なので、親として甘く見てしまったことを反省する。
- ・真面目に取り組んでいる生徒もいる。子どもから話を聞くと、先生によって、わかりやすい授業は本当に頭に入り楽しいと、でもやり方が悪くなかなか理解できない授業もあると聞く。生徒だけが悪いというわけではないのでは。
- ・1年次の中間考査から、試験結果だけをみると成績は下がっていないため、親は意欲的に取り組んでいると思ってしまった。親は家での子どもだけをみて判断しており、集団になったときの子どものようすが、家での子どもとギャップがあるのではないかと思う。
- ・あまり思わないで回答した。定期テスト前、プリント問題をやらせてもらったり、点が取れるようにしていただいてありがたいが、それでも自分の子どもは・・・。
- ・保護者には、この程度でよいという感じがあるかもしれない。個をみている保護者と全体をみて牽引している先生との相違か。
- ・親は結果でしか判断することができない。逆に子どもの何を見て判断すればよいのか。学校に行き、授業をみることが少ない中で、何をみればよいのか。
- ・親は授業参観等でようすを把握することが多い。以前参観したとき真面目に取り組んでいると感じた。
- ・先生方の感じかを知らせてほしい。意欲的に取り組むような工夫など。親は子どもを否定的にみっていない。子どもたちのよいところをたくさん見つめて伸ばしてあげほしい。

(昨年度 2 学年保護者)

- ・いつも学校で生徒全体のようにすをみている先生は、生徒のよい面も悪い面もたくさんみているはず。
- ・先生は集中力のない生徒に目がいていないのでは。
- ・職員の割合があまりに低いのは驚く。もっと興味をもたせる授業をおこなってほしい。親は数回の授業参観での判断。希望的なものも含まれた結果となっているのでは。
- ・私は、先生方と同意見である。授業のようすを保護者はみていないからだ。
- ・家で少しでも机に向かう姿がみられるので、学校でもきちんとしているのだろうと思ったからである。
- ・仕事上、なかなか学校に足を運ぶことができないため、学校での子どものようすがわからないが、先生方の捉え方が本当なのだろうか。ひとつ学年が上がり、向上の意欲をもち、取り組んでいるようにもみえるが。
- ・授業に意欲的に取り組んでいるかということは、授業参観で子どもたちの姿をみるか、子どもたちに学校のようすを聞くかということにある。保護者がもっと学校の行事や授業に関心を持って、みつめていかなければならないと感じる。子どもたちの現状を保護者は見つめず、学校任せにしまっているために、感じ方に開きがでるのだ。
- ・保護者は毎日の授業をみてないし、生徒は自分たちを悪く思いたくない。親は、ちゃんと授業を受けているという願望があるから、よい方を選択してしまっているのではないか。自分の子どもも、授業中寝たり、髪の毛をいじったり、真剣に取り組んでいない生徒がいると言っている。親はもっと自分の子の本当の姿を知るべきだ。
- ・保護者が、学校の行事に参加せず、普段の子どもたちの姿をみずに、アンケートに答えているからである。
- ・学校に行き、真面目に授業を受けていると思っている。うちの子は、学校のことや部活動の話をするが、他の子についてはわからない。親と子の会話もあまりないのでは。最近の親は共働きが多く、仕事の疲れで会話がなと思う。だから、子どもが学校に行けば、真面目に授業を受けていると思う。先生方の回答が正しいと思うのは私だけか・・・。
- ・公立高校の職員は、学力の高い生徒が多くいる学校に勤務経験があるはずなので、その学校の生徒と比較してしまうのでは。そのため、向陽高校の生徒は授業に意欲的に取り組んでいないように考えるのでは。
- ・保護者は、生徒の授業をみているわけではない。テストなどの結果で、授業態度を判断する保護者も多いと思う。職員は、いつも授業態度をみている。感じ方に開きがあってもおかしくない。
- ・先生方にも個性があり、楽しい授業の先生もいれば、もくもくと真面目に授業する先生もいると思う。相性もある。先生方の一生懸命に比べて、生徒はゆとり気分で授業をうけているように思う。復習する気持ちがたりないと思う。
- ・職員の割合が低いということは、職員の指導不足を表しているのですね。
- ・毎日、生徒のようすをみている職員と、学校生活をみたことのない保護者の感じ方の違い。職員の回答の理由を保護者に知らせるとよい。
- ・生徒が楽しいと思うような授業をしなければ、生徒は意欲的に取り組まない。
- ・授業態度＝意欲的に取り組む。親は成績さえよければいいと思っているので、先生方の苦勞を理解していない。先生方の大変な気持ちを、子どもたちが大人になって、苦勞したときに、先生方の言葉がはげみになってくれたらよいと思う。子どもたちが、どれだけ大人たちと出会えるかによって、子どもたちの未来が変わる。
- ・福祉科に通っている子が、やらなければついていけないし、やるのがあたりまえと考えている。授業に意欲的に取り組むことは、自分自身のやる気の問題。得意、不得意教科で差がでているのではないか。
- ・授業態度は保護者にはみえない。どれだけ意欲的に取り組んでいるのかわからないのに、69.2%はどこからでてくるのか。学校評価アンケートの回答は、毎回悩む。
- ・保護者は、子どもを信じているので、同じような割合になると思う。子どももいろいろな人がいるので、やる気がある子、ない子がいても不思議ではない。やる気がない子をどうにか指導してほしい。